

農業技術 プリズム

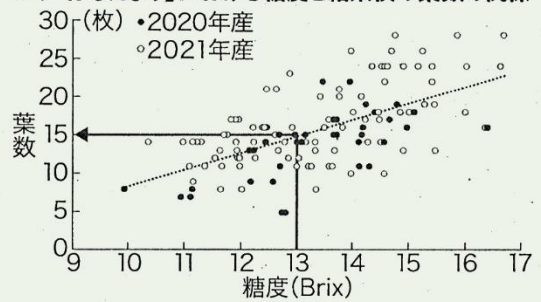
ビワ「はるたより」は、大果で食味も優れるハウス向け品種として産地へ導入が進んでいます。しかし、一部の園地では品種本来の特性を十分に発揮できず、糖度が不足し、思うように食味が向上しない事例も見られます。そこで、高糖度果実を生産するための管理の要点を明らかにすることを目的に、糖度との関連が高い結果枝の形状（葉数、長さ、太さなど）について調査しました。

その結果、糖度は結果枝に着生した葉数と最も強い関連があることが確認されました。すなわち、糖度13以上の果実の結果枝は葉数が多い傾向があり、糖度13以上の果実を生産するためには葉数15枚

結果枝の葉数15枚以上が目安

ビワ「はるたより」
高糖度果実生産

ビワ「はるたより」における糖度と結果枝の葉数の関係



以上が目安となります。また、結果枝は葉数が多いほど長く太い傾向にあることも明らかにになりました。これらのことから、葉数が多い結果枝を利用することで果実の糖度向上と食味の改善が期待できます。なお、良質な結果枝を育成するためには、芽かきや誘引などの適切な枝管理と肥培管理を行い、木全体の葉数を確保することが重要です。

（長崎県農林技術開発センター果樹・茶研究部門ビワ・落葉果樹研究室主任研究員 山本将矢）